

豊橋市自転車活用推進計画(仮称) 骨子への意見について

項目	意見	対応 (案)
長距離の自転車通行空間	<p>(豊橋自転車競技協会会長 伊藤雄章委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>豊川市や田原市などの他市や観光資源のあるところをつなぐ自転車道の整備も考えて欲しい。</li> </ul>	<p>○施策に「広域の自転車ネットワークの形成」を盛り込む。具体的な内容については施策の段階で検討する。</p>
交通安全意識の醸成の対象	<p>(㈱三井住友トラスト基礎研究所研究理事 古倉宗治副委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「交通安全意識の醸成」について、自転車の利用者だけで安全が守られるものではない。自転車事故の多い相手が自動車であるため、自動車ドライバーに対する広報、意識啓発の取り組みも加えたほうがよい。</li> </ul>	<p>○基本方針2において、自転車利用者だけでなく歩行者や自動車運転手の交通安全意識を高めていく旨を記載する。</p>
目標(自転車の分担率)	<p>(㈱三井住友トラスト基礎研究所研究理事 古倉宗治副委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標1(分担率)についてはもう少し具体的に書いてもいいのではないだろうか。</li> </ul> <p>(豊橋技術科学大学建築・都市システム系教授 廣島康裕委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動車との関係を逆転すると明確に記載した方がいいのではないか。</li> </ul> <p>(中部地方整備局名古屋国道事務所事業対策官 伊藤博文委員代理)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分担率については目標として掲げる上では、フォローをしていく必要があるため、数値の選択も配慮して決めるべきである。PT調査は10年に一度であるため、どの様に数値を得るのか配慮しないとイケない。</li> </ul>	<p>○目標の達成度の評価を考え、調査の困難な分担率でなく、アンケートにおける利用頻度を指標とする。</p> <p>○自動車からの転換については、目標以外の箇所においても明確に記載する。</p>
施策実施のプログラムと施策の優劣、濃淡	<p>(㈱三井住友トラスト基礎研究所研究理事 古倉宗治副委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施策体系について、通勤目的、通学目的、買い物目的の施策があるが、これだけの施策を一気にすべて実施するのは難しい。そのため、各目的の施策の実施スケジュールを示したプログラムのなものがないか。</li> <li>また、通勤目的、通学目的、買い物目的のそれぞれの施策の中でも優劣やメリハリをつけたほうがよい。基本的にどの目的についても走行空間の整備が重要になるのだが、例えば市民アンケートでは高齢者の買い物が多くなっており、高齢者の視点で見ると高齢者の安全意識の醸成が重要になると言える。各々の目的の中でも、全てを同様に実施するのではなく、施策の優劣、濃淡をつけたほうがよい。</li> </ul>	<p>○計画にはロードマップ的なものを盛り込む。</p> <p>○現段階では施策についての議論が進んでおらず、関係機関と未調整のため記載せず。各論についての調整を行っていく中で優先順位については検証する。</p>
メリットの具体化	<p>(㈱三井住友トラスト基礎研究所研究理事 古倉宗治副委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メリットについては、具体的なデータが記載されているとよい。5ページの近距離の移動についても、ウェブサイトのグラフがあったが、医療費の話、コストの話について、具体的にデータがあったほうがよい。豊橋市の中でどこからどこまで移動すればどれくらいのコストがかかるという具体的な例を示すことや、CO2の削減量を出すことも考えられる。もう少しデータの書き込みがあれば分かりやすい。</li> </ul>	<p>○計画本編を作成する際までに資料を整理し、本市におけるメリットのデータ記述を充実させる。</p>
ライフスタイルの具体化	<p>(㈱三井住友トラスト基礎研究所研究理事 古倉宗治副委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ライフスタイルの転換については、自転車を利用するライフスタイルなのか、豊橋市のスタイルに合わせて自転車を利用するのかのどちらなのか。自転車を利用したスタイルライフスタイルを提案するのであれば、自転車を生活の中でどの様に使うのかを示したほうがよい。</li> </ul>	<p>○ライフスタイルについては、「自転車を生活に取り入れたライフスタイル」と記載を改め、内容についても充実を図る。</p> <p>○自転車を生活の中でどの様に使うのかを分かりやすく示したイラスト等を作成する。ただし、今回の骨子には含まず、今後の作業とする。</p>
イメージ戦略の具体化	<p>(㈱三井住友トラスト基礎研究所研究理事 古倉宗治副委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>また、イメージ戦略については、どの様なイメージがあって、それをどの様に広報するのがこれからの課題になると考えられる。</li> </ul>	<p>○自転車に対して良いイメージを持ってもらうこと、各施策の実施時、自転車に関するイメージアップに繋がる取組みをあわせて実施する旨を追加。</p>

項目	意見	対応（案）
施策（駐輪施策）	<p>（私立高等学校長会代表 高倉宣夫委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車は止まっている時間が最も長いが自転車もそうである。学校では全ての生徒が来ても大丈夫な駐輪場に整備する。駐輪場に対する施策も必要だと考えるが、その様な要素はないのか。 <p>（豊橋技術科学大学建築・都市システム系教授 廣島康裕委員長）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本方針の2で通行空間と記載してあるが、この書き方では通行空間だけと受け取れる。駐輪空間の整備も記載したほうがよいのではないか。</li> </ul> </li></ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本市の課題において、駐輪場についての整理を追記。</li> <li>○施策体系に、駐輪環境に関する内容を追加。</li> </ul>
課題の交通安全に関する記述	<p>（東三河南地区公立高等学校長会代表 梶村章嘉委員代理）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートでは自転車利用者の不満、やや不満が7割となっており、満足度が低く、これは事実である。安全教育、マナーの向上のための取り組みは賛成である。</li> <li>・しかし、道路交通法の改正で強化され、私の感覚では以前よりマナー意識は向上している。先日、東三河地区の会合があり、そこでもマナー向上の取り組みを続けていくという方向で一致し、学校での教育、警察の街頭指導により、自転車利用者のマナーは向上しているという認識である。</li> <li>・さまざまな取り組みにより現状でも意識の変化があるということは加えて欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○豊橋市における現状と課題の⑤ルール遵守、マナー意識向上のための更なる取組みにおいて、学校関係者や警察等の交通安全に関する様々な取組みにより、ルール遵守やマナー意識の向上が図られているという内容を追加。</li> <li>○交通安全施策については、現状実施している取組みに加え、歩行者や自動車運転手等に対しても実施し、他の交通安全の取組みと連携させていくという内容とした。</li> </ul>
安全教育についての記述	<p>（豊橋市立小中学校長会代表 竹内輝委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で交通安全のための指導に力を入れて実施しているが、自転車の正しい乗り方の指導をしても、子供は家に帰った後に夕方に事項に合う割合が高い。また、小学校3年生、中学校1年生において、事故が多い。マナーを重点的に実施すると記載してあるが、もっと積極的な記述があってもいいのではないか。</li> <li>・自転車免許の事例があるが、2～30年前は各学校で実施していた。効果的な施策であれば、実際に実施して行く事も可能である。</li> <li>・各学校で安全教育等力を入れているが、並行して自転車シミュレーターの貸し出しなど、行政からの支援を実施して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○方針2において、交通安全施策については世代別、交通手段別に総合的に対策を行う旨を記載。</li> <li>○自転車免許、自転車シミュレーターについては、来年度の施策内容の検討の際に検討する。</li> </ul>
課題（交差点に関する記述）	<p>（中部地方整備局名古屋国道事務所事業対策官 伊藤博文委員代理）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的には7割が交差点での事故であり、交差点の処理を改善することで、車道通行が原則という面もある。</li> <li>・また、先日出たガイドラインでは設計について半分以上は交差点の設計についての記載に裂かれている。参考資料については交差点についても少し踏み込んだ分析をし、本文でも交差点の事故について踏み込んだ記述をしても良いのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○参考資料において、自転車が関係して発生した事故のうち交差点部で発生した事故の割合を分析し記載。</li> <li>○交差点時の事故においては、右側通行時や歩道通行時、車道通行時など様々なパターンにおける状況を調査する。</li> </ul>

## 庁内における意見

項目	意見	対応（案）
基本方針と目標	・目標の順序について、基本方針と揃えたほうがよい。自転車利用環境の整備は満足度、ライフスタイルの転換は利用頻度の増加につながるのでは。	○目標1と目標3の順序を逆転する。
現状分析の深化	・現状の深堀をしておくこと。	○課題の部分について、本市における現況と課題を具体的に記述。
キャッチフレーズについて	・キャッチフレーズに繋がるような、豊橋市において自転車活用を進める意義などについて記述すること	○基本方針において、目指すべきまちの姿を表現したフレーズを入れる。 ○計画全体のキャッチフレーズは次年度検討。
計画の主張について	・将来に向けて本市をどうしていきたいかという主張を示すこと。 ・計画の達成に向け、具体的に何をしていきたいかといった踏み込んだ記述とすること。	○「わが国における自転車先進都市を目指していく」ということを明確に記載。 ○基本方針において、道路空間の再配分など、今後の展開として考えていきたい内容を例示する。

## 市議会建設消防委員会における質問事項

質問事項
○ 自転車通行空間の具体的なイメージは。
○ 自転車販売店との連携の考え方について。
○ 安全教育の取組みの考え方について。
○ どのような形で自転車の様々なメリットについて市民に理解を深めていただくつもりなのか。 ○ メリットを普及していくためにはサポーター、良き理解者が必要であると思うが、どのような組織で、どのような効果を期待して計画策定をすすめていくのか。
○ 自転車が安全かつ快適に通行できることが不可欠かと思うが、昨今の自転車事故が増加している状況を踏まえ、ハード施策とソフト施策との連携にどの様に取り組んでいくのか。 ○ 中学生や高校生のポジティブな自転車利用の推進の取組みについて。 ○ 学校などにおける自転車保険の積極的な導入について。
○ 自転車の交通事故の把握方法について。 ○ 自転車の交通事故の傾向について。 ○ 自転車施策として、どのように自転車通行空間を整備していくのか。